

いつも私のコラムをご覧くださいませ有難うございます！
 昨年の11月に叔父が他界しました、88歳の大往生でした。



いつも私のコラムをご覧くださいませ有難うございます！
 昨年の11月に叔父が他界しました、88歳の大往生でした。

闘病生活をしていただけでなくピンピンしていた叔父でしたが突然倒れたとの知らせを受け病院に駆け付けた時、意識も朦朧とし吸引マスクで必死に呼吸する叔父の姿を目の当たりにし年齢も年齢なので手術出来ないとい聞いた時にはもう永くないかと直感しましたがやはりその数日後亡くなりました。母の兄である叔父は私にとっては父親同然の叔父でした。

どうのも私が4歳の時に事実上両親は離婚しそれぞれ以後母と姉と私の3人は母親の実家に住ませてもらったりその次は滋賀にある父方の母親と同居したりと貧しい私たちは住まいを転々としていました、毎日のように私たちを養ってあげていると思着せがましく母親に対して罵声を浴びせる祖母との喧嘩は絶えずそれを見かねた叔父が私たち家族を引き取ってくれたのです。叔父が経営するボロボロのアパートの6畳一間でお風呂はもろろんないトイレも共同トイレという生活でしたが叔父のお陰で今もこうして暮らせていると思いますので本当に命の恩人です。そんな叔父の葬儀は本人の意向でこじんまりとした家族葬で行われ、まるで眠っているかのように安らかな表情であの世に旅立っていきました。

ところで叔父ですが生前はもの凄くきっちりとした性格とちょっとお茶目なところもあったのですが最後に笑わせてくれたのがエンディングノートでした。

ご存知の方もいらっしゃるかと思いますがエンディングノートとは自分にもしものことがあった時のために、伝えておきたいことをまとめておくノートのことですが叔父もきっちり書いておましてその内容とは…

まず葬儀の色々な事が指示されておりました、家族葬でやること、祭壇はこんな風にして欲しい、棺桶はこれにして欲しいなどなど…

なんでも暇さえあればあっちこっちからその類のカタログを取り寄せてガン見していたそうで、見積もりもあげていて予算まで計算しておりました。そしてホテルなど綺麗な場所が好きだった叔父は自分が焼かれている間どっかのホテルで皆で美味しいものを食べて待っていてほしいとも書いてありました。(笑)

そして最後には葬儀に誰は呼んで誰は呼ぶなども…これを見て何より呼ばれる方に入っていてホッとした私でした。